



発行人 福島県教職員組合
 発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
 [定価一部 20円]
 編集・責任者 角田 政志
 e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
 http://www.f-t-u.or.jp
 (この購読料は組合費に含まれています。)

教研活動を推進しよう!

～ 教研活動とは? 組合の教育研究活動です! ～

学校現場で行われる教育研究活動といえば、学校ごとに取り組む現職教育、市町村単位で行われる小・中教研の各部会、教育委員会や教育事務所が主催する研修会などがあります。しかし、どうでしょう。どれも「やらされ感」があるのではないのでしょうか。現職教育や小・中教研は、研究テーマがあるにしても一部の人が決めたものやいつの間にか決まっていたもの、そもそもテーマが何かさえ分からなかったり…。では、教育委員会などが行う研修はどうでしょう。多くが文科省や県教委などから降りてきたものを「仕方なく」やっているところもあるのでは…。これらの研究・研修を「官制研」とよんでいます。「官制研」の基盤とするものは「学習指導要領」です。学習指導要領に沿った人づくりが目的です。

一方、組合の教育研究活動は「教研」とよばれ、支部教研、県教研、全国教研と研究が積み重なっていきます。学びたい人たちが集まって、学びたいことを学びたいように学ぶのが「教研」です。テーマも自分たちで決め、研究の視点や研究内容・方法も自分たちで話し合っ決めていきます。校長の許可など全く必要ありません。「この人の話を聞きたい」と思えば、その人と連絡を取り合い、一緒に語り合うことのできるのが「教研」です。そして何よりも「教研」は「目の前の子ども」を大切にします。子どもそのものを受け止め、子どもの個としての育ちを支援するのが目的です。

「3人寄れば文殊の知恵」。数人でもいいので仲間で集まって学びを進めてみましょう。

～ 分科会推進委員会(1次研)・講演 ～

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| ○4月21日(土) | 自民党の改憲素案 |
| ○郡山市立永盛小学校 | 9条の2に自衛隊を「実力組織」として明記。(警察力以上戦力未満) |
| ○斎藤 一久さん
(東京学芸大学准教授) | 73条の2に緊急事態条項 → 不必要。現状のままで問題なし。 |
| 「未来へのメッセージ
～今、憲法を考える～」 | 26条3項に教育の充実を新設 → 憲法に規定する必要なし。 |
| | 国は、教育環境の整備に努める → 教育内容・方法も規定。 |
| | ナショナリズムではなく、憲法にこそ愛着を持つべき! |

今次教研の福島県集会は秋ではなく夏季休業中に予定しています。

～ 第68次福島県教育研究集会(2次研) ～

- 期 日 8月25日(土) ※26日はサマーセミナー
- 場 所 あづま荘(福島飯坂温泉)

第68次教育研究福島県集会へ向けて

各分科会のテーマ・柱立て

2018年4月21日の分科会推進委員会で話し合われた「県教研のテーマ・柱立て」について簡潔にまとめました。日教組から出ている討議資料も合わせてお読みいただいた上で、夏の集会に向けて実践を進めていきましょう。

1 日本語教育

○つづり方・作文教育

入門期の作文指導では、語いの獲得と合わせて、どのような題材を取り上げどう書かせていくかを確かめる。さらに、書く力をつけていくためにどのような指導が系統的になされているか明らかにする。

○言語の教育

文法や語いの指導など、教科書と現行の学習指導要領に示されている言語の教育には、科学性・系統性に欠ける問題がある。「にっぽん語」の本当の姿を明らかにする。

○文学作品・説明文の読み

文学作品を形象豊かに捉えさせるために指導過程をどうするか。文学作品の本質をとらえ、子どもたちに読む力をつけるために、教材をどのように編成したらよいかを明らかにする。

2 外国語教育・活動

○外国語を通しての平和、人権、多文化共生

○学習意欲を高める授業の工夫

○自己表現とコミュニケーション

○コミュニケーション活動の実践・教材の工夫 (小学校)

○自主教材と「読み取り」言語材料 (中学校・ 高校部会)

3 社会科教育

○日本社会が抱えるさまざまな課題に対し、平和・人権という価値を子ども自身が獲得し、これからの日本のあり方、地域のあり方を考え、行動していくための授業づくり

○主権者教育を市民社会をつくりあげる市民性の育成としての実践

4 算数・数学教育

○ 本当の学びとは

○ 個人差に応じた支援

○ ICT の活用

5 理科教育

○私たちが子どもたちに伝えたい「学力」とはどのようなものか

○学びの「基礎」とそれを支える「基本」を意識できているか

○私たちが伝えようとする「科学」とはどのようなものなのか。

※循環型社会をめざすことに寄与する科学を伝える事が大切。技術ではなく、知恵を生かす、ハードパスからソフトパスへの移行を意識しながら実践を進める。8月の教研にレポートを持ち寄る。

6 美術教育

○子どもを取り巻く現実と子どもを向き合わせ、自分の思いを表現させる授業。

○子どもに寄り添った実践。

※地味な素材でもしっかりと向き合って、子どもと対話しながら制作したものを持ち寄る。

9 保健・体育

○本来は、授業としての体育についての討論をすべきであるが、子どもを取り巻く体育環境(運動・スポーツ遊び)として大きく体育を捉え、部活動、特設クラブ、競技会スポ少のことなども取り上げてよいのではないか。

10 技術・職業教育

○教育実践の報告

○施設・設備の状況環境整備について

○地域の実態に対応した指導法などレポートを持ち寄り話をする。

※県教研のテーマと柱立てに基づき、話し合いをしながら県としてのレポートにまとめ、全国教研に持って行く。

11 自治的活動と生活指導

- 子ども理解
- 学級づくり
- 自治の力の育成

13 人権教育

- 福島への差別を含む様々な差別を生みださない、人権意識を育てる道徳などの実践。
- 個性や違いを認める力を育てる実践。

14 インクルーシブ教育

- 日頃の実践交流
- 支援員介助員さんとの連携
- 中学校自閉症情緒学級の今後
- 就学支援の問題

16 両性の自立と平等をめざす教育

- 意識・慣習の見直し・ジェンダー平等など
 - 性の教育 ・命、人権など
 - 労働・家庭 ・労働法、進路指導など
- ※8月教研で両性の自立と平等を目指す推進委員会を前半行う。後半、実践について討議する。
※10月の両性研学習会の後半でレポート検討を行う。

17 環境・公害 A環境・公害B食生活

- これからの放射線教育をどう進めていくか？
- 食の不安をどう解消していくか？

18 (15) 平和教育

- 風化しつつある戦争、被ばく体験を継承し、地域の教材、加害の事実の教材化、平和、憲法、原発、放射線の教材化など、今日的課題にむき合う教育。
- ※原発事故と平和教育は切り離せない。
原発事故に関連したレポートを持ちよる。

19 メディア・リテラシー 教育と文化活動

- 図書館の役割や司書の業務への理解
- 本に親しませる工夫
- 図書などを通した司書の関わりと子どもの変容

20 高等教育・選抜制度と進路保障

- 子どもたちの権利を守り、働きやすく生きやすい社会をどうつくるかという視点をもって討議を深める。
- ・キャリア教育 ・選抜制度
- ・特別な支援を要する子どもたちへのアプローチ

21 「カリキュラムづくりと評価」

- 多忙化
- 新学習指導要領
- ・道徳の教科化とその評価
- ・多忙科と英語
- ・多忙化と部活動
- ・新学習指導要領

23 教育条件整備の運動

- 就学援助、給食費の公費負担
- 人事配置

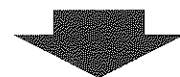
24 総合教育と防災・減災教育

- 地域の現状に対応した実践
- ・地域教材のあり方
- 子どもの発想を生かした実践

**2018年度の教研を
進めるにあたって**

(推進委員会で確認)

- ・推進委員会で必ず、中心になって連絡係(分科会責任者)を担う人を決めておく。
 - ・推進委員会で成立しない分科会は、二次研は行わない。(今年度は休止する。分科会名は残しておく。次年度、改めて提起する。)
 - ・推進委員会に成立しなかった分科会でも、二次研を希望する組合員からの申請があれば、実施する
 - ・県教研後も必要があれば全国教研のレポート準備などで、分科会を開催することができる。
- ※会場費などの補助あり(補助は1回)



全国教研 時期は1月下旬～2月上旬

●福島県教組第68次教育研究分科会推進委員会役割分担表●

No.	分科会名	小分科会名	第68次県教研			基調報告			司会・記録										
			代表者名	支部	分会	67次教研参加者			66次教研参加者			65次教研参加者							
						参加者名	支部	分会	氏名	分会	支部名	氏名	分会	支部名					
1	日本語教育	A作文・話ことば																	
		B文学・説明文・言語	永田 博	岩瀬	鏡石一小	永田 博	岩瀬	鏡石一小	高萩志津子	いわき			永田 博	岩瀬	鏡石一小				
2	外国語教育・活動	A小学校 B中・高校	酒井克幸	伊達	釀芳中														
3	社会科教育	A歴史認識															佐藤 誠	東白	高野小
		B現状認識	伊藤 弥	岩瀬	大里小	伊藤 弥	岩瀬	大里小	伊藤 弥	岩瀬	大里小		伊藤 弥	岩瀬	大里小				
4	算数・数学教育	A小学校	瀬戸禎子	福島	大久保小							橋本倫一	岩瀬	広戸小			遠藤 淳	田村	三春小
		B中学校・高校																	
5	理科教育		佐藤 毅	本部							坂井 聡	いわき	平二小			佐藤雄一	伊達	霊山中	
6	美術教育		菊田直之	郡山	高瀬小	菊田直之	郡山	高瀬小	高橋美保	いわき	磐崎小								
7	△音楽教育																		
8	△家庭科教育					深谷拓男	西白	熊倉小											
9	保健・体育	A保健																	
		B体育	内村勝男	伊達	書記局														
10	技術・職業教育	A技術教育	後藤昌弘	東白	鮫川中	後藤昌弘	東白	鮫川中	後藤昌弘	東白	鮫川中			佐藤方信	両沼	三島小			
		B職業教育																	
11	自治的諸活動と生活指導	A小学校	大河内秀雄	西白	泉崎一小												大内 透	いわき	小名浜一小
		B中学校・高校																	
12	△幼年期の教育と保育問題																		
13	人権教育		菊池ゆかり	石川	石川小							大槻真孝	相馬	原町一中			菊池ゆかり	石川	石川小
																	柴口正武	双葉	浪江中
14	インクルーシブ教育		押部香織	福島	福島三小	三浦律也	福島	川俣南小								押部香織	福島	福島三小	
16	両性の自立と平等をめざす教育		佐藤英子	福島	佐倉小				佐藤英子	福島	佐倉小			加藤睦美	岩瀬	西袋一小			
17	環境・公害・食教育	A環境・公害	三浦俊彦	福島	渡利小	三浦俊彦	福島	渡利小	押部逸哉	福島	信陵中			坂井 聡	いわき	平二小			
		B食教育																	
18	平和教育		猪俣優子	北会	松長小				押部香織	福島	福島三小								
19	メディア・リテラシー教育と文化活動	A学校・地域の文化活動							生江和枝	両沼	西会津小								
		B情報化社会の教育・学校図書館	古川里美	郡山	湖南小中	古川里美	郡山	湖南小中							佐藤初子	郡山	芳賀小		
20	高等教育・選抜制度と進路保障	A学校・地域の文化活動	日野 彰	双葉	富岡一中											井田玲子	いわき		
21	カリキュラムづくりと評価		石川晃民	郡山	永盛小	内村勝男	伊達		高橋尚幸	相馬	鹿島小			古川 晃	両沼	昭和中			
22	△地域における教育改革教育とPTA	A民主的學校づくり																	
		B・PTA地域の連携																	
		C過密・過疎・へき地の教育																	
23	教育条件整備の運動		酒井和紀	福島	清水小	秋山和美	いわき	中央北小	鈴木久之	安達									
24	総合学習と防災・減災教育	Aものづくり・生活・環境の中															加茂幸子	田村	緑ヶ丘一小
		B人権・平和の視点から	柴口正武	双葉	浪江中				柴口正武	双葉	浪江中								

※ △は推進委員会に成立しなかった分科会です

2018年度女性部役員(副部長) 選挙公示

* 在任期間は今年度女性部定期大会より次年度大会まで

(1)選挙の種別

福島県教職員組合規約第2条、及び同女性部細則第11条・第14条に基づく女性部副部長(2名)の選挙

(2)立候補の資格

福島県教職員組合の女性部組合員、並びに福島県教職員組合選挙規程第18条但し書きによる手続きを経た者

(3)立候補受付開始及び締切日

5月25日(金)より6月1日(金)午後5時までに県選挙委員長に届け出る。

(県選挙管理委員会事務局:県教組組織部へ)

(4)選挙の運営

* 女性部定期大会(6月16日(土))当日、大会代議員により投票を行う。

* 当日の選挙執行に当たっては、立候補者の出ない支部代表者3名が行う。